

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)2 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

3 地震一口メモ

地震発生確率について	-----	6
------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

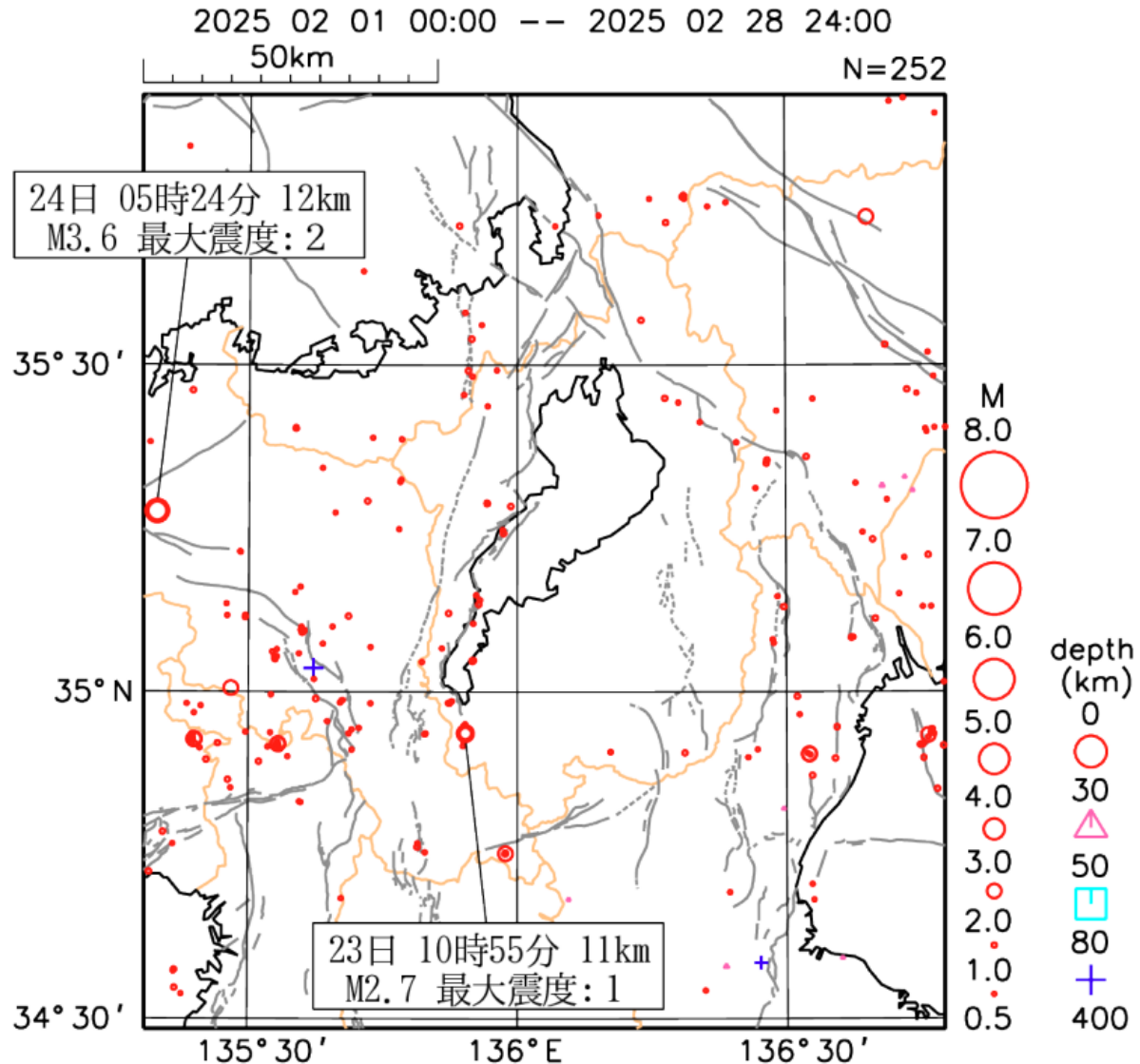
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年2月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

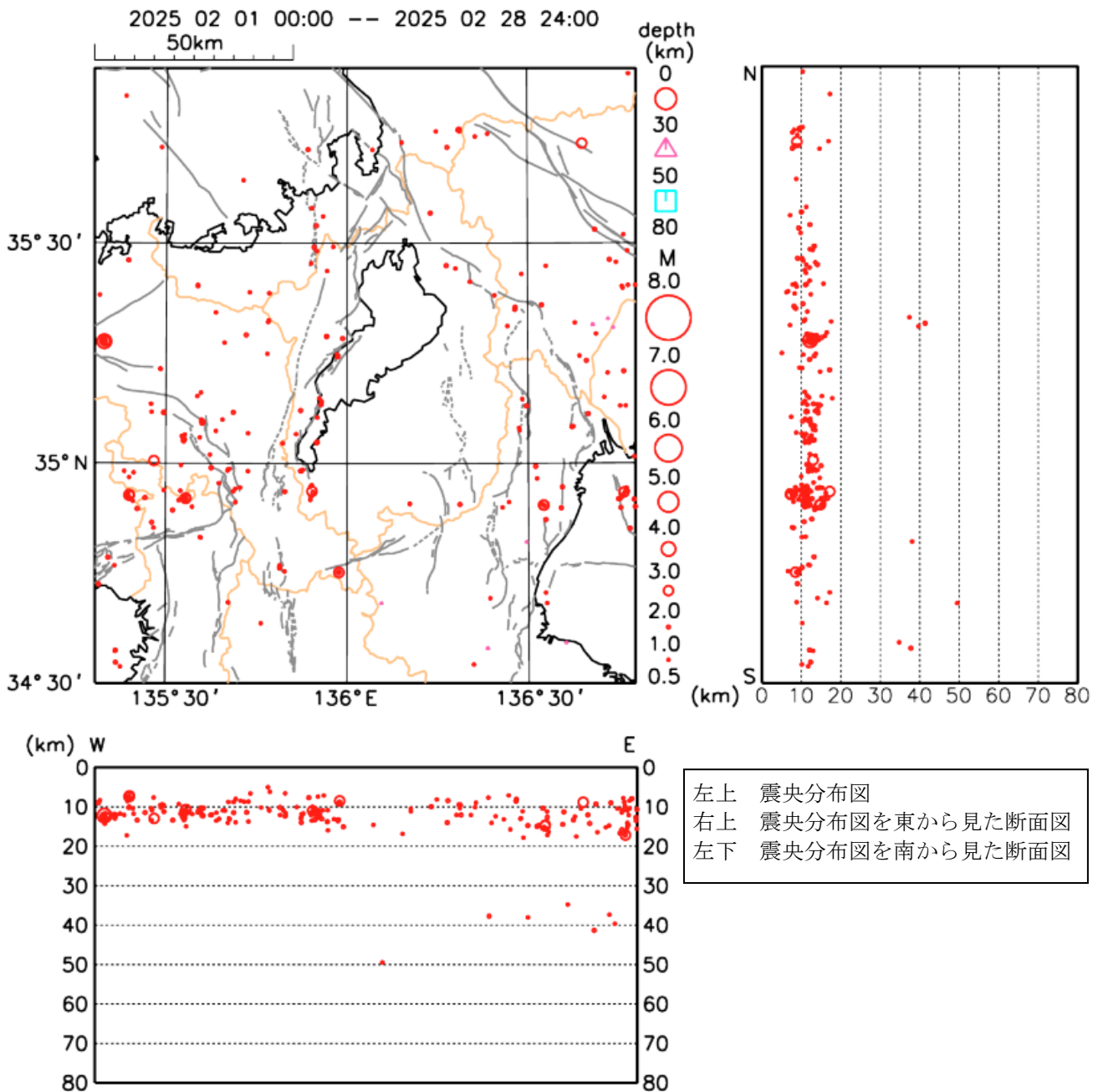
2月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は16回(前月13回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした(前月2回)。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

23日10時55分 滋賀県南部の地震(M2.7): 大津市で震度1

24日05時24分 京都府北部の地震(M3.6): 野洲市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2025年02月23日10時55分	滋賀県南部	34° 56.2' N	135° 54.2' E	11km	M2.7
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1：大津市南郷＊

2025年02月24日05時24分	京都府北部	35° 16.5' N	135° 19.7' E	12km	M3.6
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

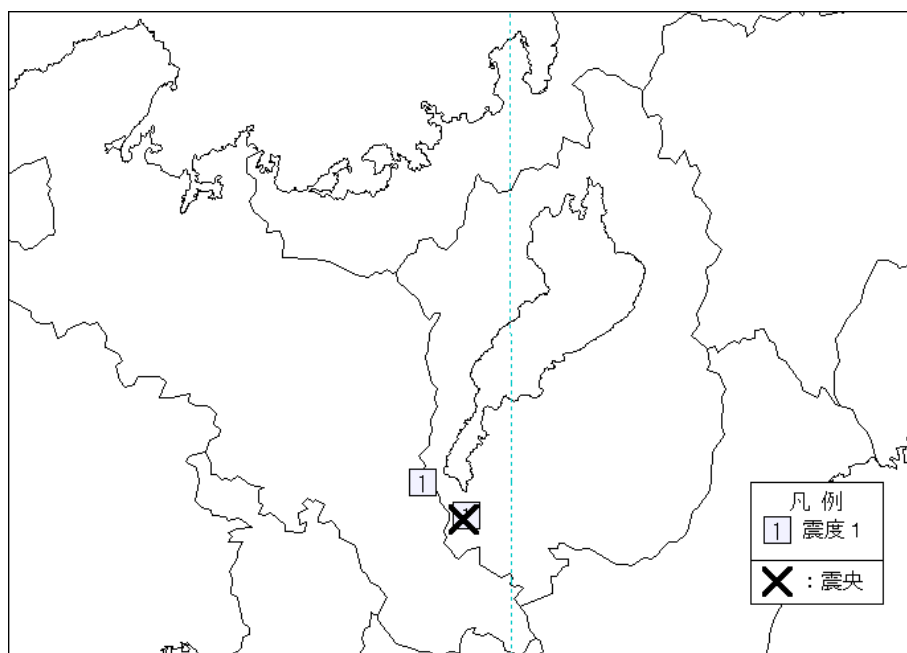
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1：野洲市西河原＊

※ 名称の末尾に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

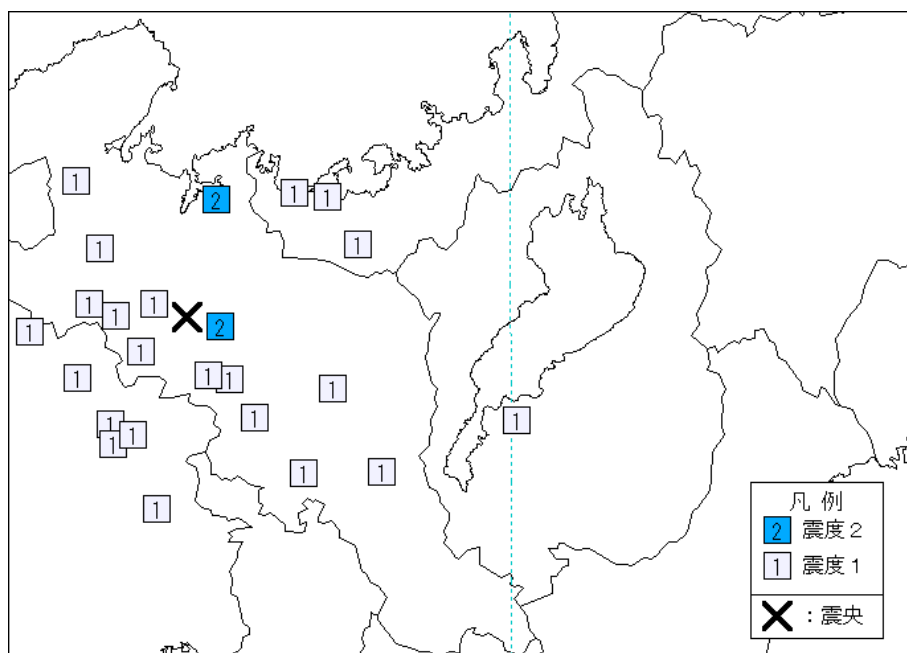
(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

2025年2月23日10時55分 滋賀県南部 (M2.7)



各観測点の震度

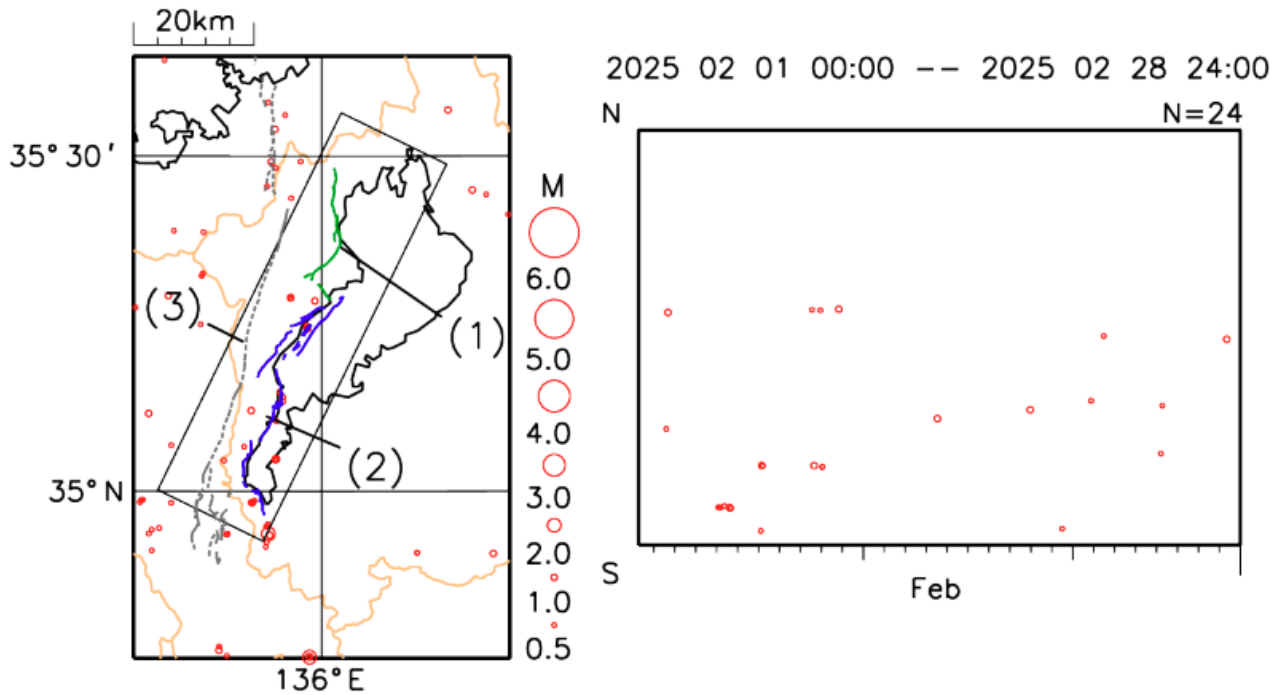
2025年2月24日05時24分 京都府北部 (M3.6)



各観測点の震度

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 7 年 2 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

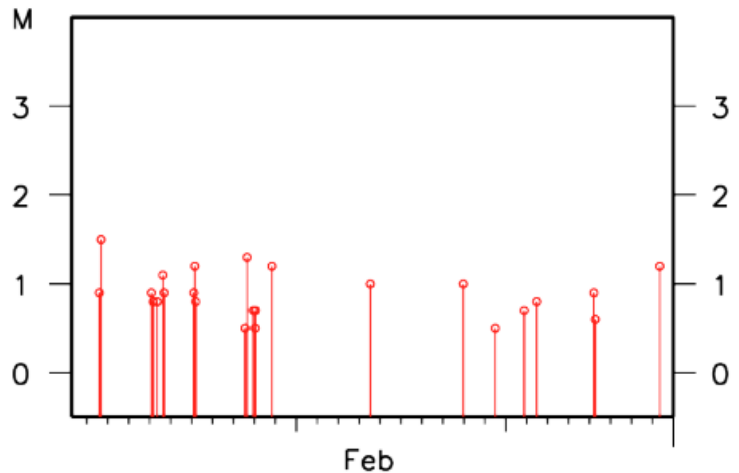
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

2 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

地震発生確率について

前回、1月に発生した日向灘の地震の説明で、地震調査研究推進本部による長期評価のうち、南海トラフ領域の今後30年以内の地震発生確率がこれまでの70～80%から80%程度に更新されたことを紹介しました。地震発生確率は毎年1月1日を基準とした値で更新しており、一見確率が大きく上昇したような印象を受けますが数値では1%大きくなっただけです（昨年が74%～81%に対して、今年は75～82%）。

30年以内の地震発生確率は南海トラフだけではなく活断層の地震でも計算されており、滋賀県内で最も高い確率となっているのは琵琶湖西岸断層帯（北部）の1～3%です。一見すると南海トラフに比べるとかなり小さい確率に見えますが、地震の発生間隔が大きく異なる^{*1}ため海溝型地震と活断層で起こる地震の地震発生確率をそのまま比較する事が出来ません。また、1995年の阪神・淡路大震災の原因となった「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」（六甲・淡路島断層帯のうち野島断層を含む区間）の発生直前の確率を計算すると0.02～8%、「平成28年（2016年）熊本地震」（布田川断層帯布田川区間）では、ほぼ0%～0.9%で、これらと比較すると琵琶湖西岸断層帯（北部）の数値は決して低くはありません。地震発生確率の数値だけではリスクを低く捉えられるおそれがあるため、30年以内の地震発生確率に応じてランク分けを導入しています。これによると琵琶湖西岸断層帯（北部）はSランク、南海トラフはⅢ*ランクになります。

ちなみに交通事故で死亡する確率が0.2%、火事で被災する確率が1.9%という統計^{*2}があります。確率は低いですが、多くの人は交通事故や火事に気を付けて生活しています。確率は小さくても地震が発生すると大きな被害となるため、事前の備えが大切です。

*1 海溝型地震の発生間隔は数十年から数百年程度、活断層の地震では数千年程度

この発生間隔が長ければ長いほど、30年以内の地震発生確率は計算上低くなります

*2 警察白書・消防白書の統計を基に、一定の仮定のもとに計算

我が国の主な活断層における相対的評価

色	ランク	30年以内の地震発生確率
赤	Sランク（高い）	3%以上
黄	Aランク（やや高い）	0.1～3%
黄	Zランク	0.1%未満
白	Xランク	地震発生確率が不明 (過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)

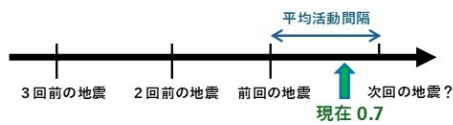
地震後経過率が0.7以上である活断層は、ランクに*を付記する。

我が国の海溝型地震の相対的評価

色	ランク	30年以内の地震発生確率
紫	Ⅲランク	26%以上
赤	Ⅱランク	3～26%未満
黄	Iランク	3%未満
白	Xランク	地震発生確率が不明 (過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難)

地震後経過率が0.7以上である海溝型地震は、ランクに*を付記する。

※地震後経過率は、現時点の地震発生の切迫度を示す数字で、
1に近づく次の地震がいつ起きてもおかしくない状態



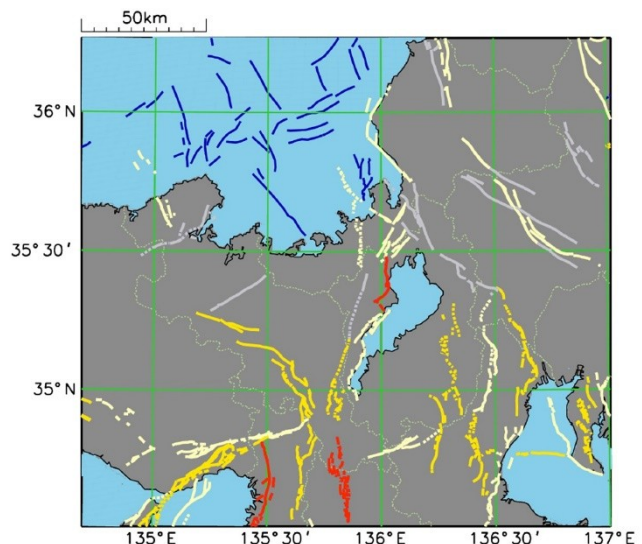
ランク分けの定義と地震後経過率のイメージ

地震調査研究推進本部HP 長期評価

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/

気象庁HP 地震から身を守るために

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/jishin_bosai/index.html



滋賀県付近の活断層をランクで色分け

※海域活断層は地震発生確率の評価を実施していないため青線を表示